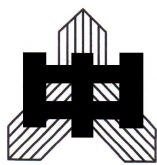
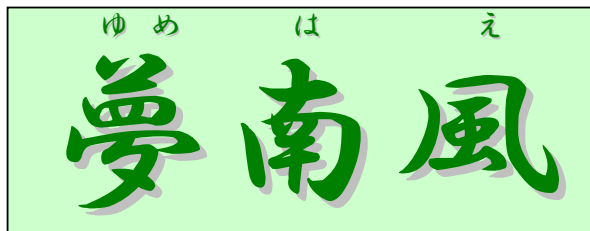


創立77周年



誠実 勉学 健康

学校便り2月号



令和6年2月29日発行
鹿児島市立河頭中学校
鹿児島市犬迫町1168
Tel 099-238-2663

生徒数 合計84名
1年34名, 2年27名, 3年23名

「心は体のどこにある？」

校長 淵脇 広智

「心は体のどこにある？」と問われたときに、心臓のある左胸の上に手を当てて「ここです。」と答える人がほとんどです。「心」には「気持ち」、「気分」など感情的なものが含まれています。「心を動かされる」とか、「心を悩ます」という使い方がこれに当たります。確かに、私たちはびっくりすると「ドキドキ」したり、悲しいことがあると「胸が締め付けられる」ような感覚を覚えます。「心」が「心臓」にあるという気持ちになるのは、ごく自然なのかもしれません。私たちが感じる「心」は、私たちが「生きている」からこそ成り立っています。実は、人それぞれの「心」をつくりだしているのは、「脳」なのだそうです。心を構成する3つの要素として、思考（認知）・感情・行動の3つが大きく関係していて、脳の研究者は、「心は脳がつむぎ出すもの」と捉えています。

例えば、交差点で横断歩道を渡るとき、歩行者用信号が青の点滅を認知します。「渡りきれぬかな。」と思うと同時に、とても不安になります。その結果、走るという行動をとり、渡り切れたときには安心します。この場合、走って渡ることによって不安を解消できています。人が安心したり、幸せに感じたりするのは、心が安定しているときです（思考⇔感情⇔行動がバランスよく働いているとき）。しかし、人は負の感情（不安、怒り、悲しみ、つらさ等）が思考や行動よりも優位に立ってしまうと、分かっているのに適切な行動がとれなくなってしまうことがあります。冷静になることが大切です。特に思春期・青年期にある中学生は、どうしてよいかわからなくなると、不安だけが高まり身動きができなくなるようです。学校では、そのような生徒へは、共感的に傾聴することに心がけています。生徒は、聴いてもらうことで負の感情が軽減され、自らどうしたらよいのか考え、前向きな行動がとれるようになるからです。

各御家庭におかれましてもお子さんの様子がおかしいなど感じたなら、状況に応じて、「何かあったのね。」等の声かけをして、決して途中でとがめたり、叱ったりせずに聴き上手になっていただけるとありがたいです。

それだけで、お子さんの安心感は増してくると思います。

河頭中の生徒には、不安になったり、困ったときは一人で悩まないで、SOSが出せる人であってほしいと思います。



～ 鹿見島学習定着度調査結果について～

R6.1月実施 1年生

	国語	社会	数学	理科	英語
県	75.9	54.4	74.3	66.3	77.0
本校	77.0	60.8	70.6	63.8	85.8
本校一県	1.1	6.4	-3.7	-2.5	8.8

R6.1月実施 2年生

	国語	社会	数学	理科	英語
県	65.6	62.3	68.8	66.9	71.4
本校	68.7	66.0	80.0	70.6	90.8
本校一県	3.1	3.7	11.2	3.7	19.4

【考察】

1年生は教科間で定着度の差が生じており、課題と考えます。難易度の違いもありますので単純な教科間の定着度を比較することはできませんが、到達度としての数値バランスが崩れていますので、各教科の取組の工夫・改善や家庭学習の充実が求められます。2年生は全ての教科で県の平均以上の数値となり、特に数学・英語の定着が図られています。また1年生時からの伸びもみられ、教科によっては5ポイントの上昇も確認され、授業と家庭学習の両輪が機能していることが見てとれます。本年度の河頭中での学力向上の取組として、

- ① 教職員の指導力向上のための研究授業の実施(社会・英語・音楽)
- ② 「子どもの学び」に重きを置いた授業研究(授業後の反省会)
- ③ 定期テスト等で、記述し、表現する評価問題の各教科での導入(授業と評価の一体化)
- ④ 一人1台のタブレットPCを使用した授業改善
- ⑤ 河頭中「教科指導のスタンダード」「授業時のスタンダード」「家庭学習のスタンダード」の設定・
全教科領域での実践、小中学校で連携した学力向上に向けた実践などを行いました。

先日行われた学年末テストの結果の返却が進むと思いますが、上の検査結果を含めて学力向上への工夫を来年度も継続して行います。また、特に表現力(考えたことや思ったこと、わかったことなどを文章で書き出す力)の向上が最優先課題だととらえ、授業の中でも「考えること」「考えたことを、他者との交流を通して比較・検討すること」「それらをまとめ、整理して書くこと」に取り組んできました。定着度調査から取組の一定の成果が出ましたので、今後も継続していきたいと考えます。本年度も「表現すること」が重視された課題が出題され、来週行われる公立高校入試でも出題されることでしょう。

また、来年4月実施予定の全国学力・学習状況調査では国語・数学の2教科が実施されます。新学習指導要領が本格実施からまる4年、今後も「主体的で対話的な深い学び」を追求することになります。大学入試制度の変わる時代の子どもたちの学習の在り方や私たち教師の指導力向上も含め、長期的なスパンで工夫・改善してまいります。